

PORTICO

vol.34 2019.1



「桜蓮祭」

実行委員長



初めに第17回桜蓮祭にご参加、ご協力していただいたすべての方に実行委員会を代表して感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

今年度は「action～地域とともに踏み出す1歩～」というスローガンのもと桜蓮祭の企画、運営を行いました。新潟県立看護大学は日頃から地域とのつながりを大切にしており、一年次にはふれあい実習を、二年次以降の実習では地域の病院で実習を行い、地域医療を肌で感じ、将来に向けて実りある日々を過ごしています。そんな地域とともにある私達が、地域の皆様のために何ができるかを考え、何かactionを起こせないかと思いこのスローガンにしました。

本学には様々なサークルがあり、日々熱心に活動に取り組んでいます。桜蓮祭ではその活動の成果を地域の皆様に発表させていただ

きました。災害看護サークルや認知症オレンジサークルなど看護系のサークルでは学校生活で学んだ知識を地域の皆様に発信し、よさこいサークル、ダンスサークルは演舞、踊りで地域の皆様に元気を与えることができたのではないかと思います。

また今年は、吉本興業さんからレギュラーさんとしゅんしゅんクリニックPさんにお笑いショーをしていただきました。しゅんしゅんクリニックPさんは医師免許を持った芸人さん、レギュラーさんは介護職員初任者研修の資格を持つ芸人さんで、笑いで医療に貢献している二組にお越しいただき、桜蓮祭を盛り上げていただきました。

最後に、雲ひとつない青空のもと、たくさんの方に足を運んでいただき、素晴らしい桜蓮祭を行うことができました。誠にありがとうございました。

index
もくじ

- | | | |
|---------------------------|--------------------------|---------------------|
| 1 桜蓮祭 | 4 実習感想 ふれあい実習 | 6 学生アンケート |
| 2 座談会・学長と看護学生の
スモールトーク | 実習感想 基礎看護学実習Ⅱ | 新任教員紹介 |
| 3 看護研究発表会 | 実習感想 精神看護学実習 | 7 研究室訪問 |
| | 5 実習感想 総合実習
オープンキャンパス | 8 いきいきサロン報告
編集後記 |

座談会・学長と看護学生の スモールトーク

「平成」も残りわずかとなりましたが、新しい年に、学長と1年生・4年生に看護についてよもやま話をしてもらいました。

参加者

司会 川野 准教授

小泉学長

4年

4年

1年

1年

Q 新年ということで、自己紹介を兼ねて、今年の目標を教えてください。



とりあえず、看護師と保健師の国家試験に合格することです。合格して看護師としていろいろな新しい貢献をしたいです。



私も同じで、やっぱり国家試験に合格することです。来年は、学生から社会人になる年なので、大学で学んだことを存分に発揮でき、社会人としても新しいことをたくさん吸収できるような1年にしたいです。



まだ1年なので技術的なことはよくわからないんですけど、2年生になったら病院での実習も始まるので、やっぱりしっかり勉強しておきたいです。それで、いざ看護師として働くときに大学で学んだことを生かせるようにしたいです。



私も同じなんですけど、実習が始まるので、実習を通して自分のなりたい看護師に近づけるように勉強して頑張りたいです。

Q 学長はいかがでしょう？



来年は、学長3年目なんですけど、平成25年に大学が法人化しました。2018年問題と言って、18歳人口が急速に減少するので、皆さんのような優秀な学生をたくさん確保する、というのが学長としての目標です。

Q 実習がドキドキの1年生へ、4年生からの先輩風(アドバイス)があったらお願いします。



そうですね、実習は・・・はじめて患者さんに直接ケアをする時は僕も怖かった。やっぱり看護師さんも忙しい中で、僕たちの面倒も見ってくれるので、ちょっと話しかけにくいなって思うこともあるかもしれないけど、患者さんと接することっていろいろなことが学べるし、看護師さんも忙しい中でちゃんと教えてくれるので、わからないことは積極的に質問したほうがいいと思います。



はい。



実習が始まる前が一番緊張するんじゃないかな(笑)。いざ、実習が始まっちゃうと、もう患者さんのために何ができるかを考えて一生懸命やれば、患者さんも応えてくれるし、看護師さんも一生懸命教えてくれるので、今が一番緊張するけど、大丈夫だと思います。



はい。

Q 看護のおもしろさってどんなところだと思いますか？



やっぱり、実習をしてきて思うのは、いろいろな患者さんの人生に触れられる職業だっていうところですかね。



コミュニケーションが取れる人も、そうでない人もいますけど、今までの人生の背景っていうのがそれぞれあって、その人生が入院中の生活にも表れていて、その背景を汲んで看護していくっていうところは、すごくおもしろいと思いますね。あと、看護師はリハビリテーションもできますし、薬のことも分かっていて、なおかつ、生活の援助もできるのと、とても幅広い分野のことをやっています。実習をしていく中で、多職種と連携している場面も多くて、それもおもしろいと思います。



実習などを通して、疾患もニーズも違うけど、患者さん一人一人も違って、正しい看護が1つだけじゃないのがおもしろいって思います。ある患者さんにはいい看護でも、ほかの患者さんではそうじゃなかったりするのて、いろいろな正解を見つけて一生懸命考えて、その患者さんの正解を見つけていくのが、すごくおもしろいって思います。



さつき、大和さんも言っていたんですけど、看護師って、いろんな人と関われるし、生身の人間と関わってける職業というのは魅力なんじゃないかと思えます。今はパソコンなどを使うデスクワークが多い仕事が多い中で、ほかの人と一緒に関わって自分が生き残っているところ、今、魅力を感じています。



まだ1年生なので、講義が多いんです。患者さんと直接触れ合うというよりは、こういう病気にはこういう治療法があるんだとか、こういう患者さんにはこういう看護とか、こう接したほうがいいんだとか、そういう話を先生から聞いています。先生たちの今までの体験談を聞いていると、おな病気でその人によって考えとか、病気に対する気持ちとか、これから自分はこういうふうにしていきたいとか、一人ひとり価値観が違って、なんか人間っぽいって感じて、そういうところがおもしろいって思います。



Q ここで、大先輩の学長にも看護のおもしろさを聞いてみましょう。



そうですね。人に感謝される仕事っていいことでしょうか。例えば、便秘でとても苦しんでいる患者さんに、排便ケアで洗腸して、スツと出た時は、思わず患者さんと抱き合っちゃったこともあります(一同笑)。本当に人生の重要な局面に出会って、感謝されたっていうこともありましたし、その時の事は一生忘れたいですね。私は循環器の病棟で主任看護師をしていたんですけど、印象に残っていることがあります。皆さんと同じくらいの青年でした。当時、かなり重症の心臓病で、手術は成功したんですけど、術後の経過が悪くて、顔が真っ白で、手足は冷たくて、冷や汗もかいているような症状で。最初は気管挿管でしゃべれない状態だったんですけど、私が手を伸ばしたら、しゃべれないけど、口ではありがとうございますって、感謝されました。しばらくして、その患者さんが亡くなって、病院からお見送りの時に、患者さんが生前「万が一、手術後の経過が良くなかったとしても、僕に悔いはありません」というメッセージが残されていたことが分かって、とてもびっくりしました。そういう、悲しいけど感動的な場面に立ち会うこともあります。



学長



Q

皆さん、ありがとうございます。目標が達成されますように応援します。さて、ここからは、2つのテーマについて話していただきたいと思いますが、まずは、ワークライフバランスについてです。

ワークライフバランスについてちょっと解説

ワークライフバランスとは、個人それぞれが「仕事」と「家庭」の両立を無理なく実現することで、日本看護協会では、働く時間の長さや働く時間帯・曜日が選べるような「多様な勤務形態」、院内保育や夜間保育などの「子育て支援」などのワークライフバランス支援策を推進している。



Q

働き方改革と言われておりますが、皆さんの理想的なワークライフバランスってどんなものでしょうか？



給料はもちろん高いほうがいいけど、給料よりも、仕事する時は仕事して、休む時はしっかり休むっていう、メリハリをつけて仕事をすっていうのが理想です。



業務に100%力を入れられる全体的な環境がほしいかな。知り合いの看護師は、休みの日でも疲れきって、翌日は業務なんだけど、疲れを持ち越しちゃってるという話を聞いたりすると、業務に100%集中できないと医療ミスを起こすかもしれない、患者さんの不利益にもなってしまったり、僕としては、疲れをとる休みと、充実させるための休みがほしい。充実した休みを送るための給料とか福利厚生もほしいです。



Q

結構現実的な話でしたが・・・



看護師って離職率が高いっていうのを聞くんですけど、なんで高いのかなって考えたら、仕事がついのかなと思う。でもやめる人が多いと他の看護師の仕事がさらにきつくなるので、大和さんたちが言ったように、やっぱり休みを一人一人がしっかりとれば、看護職全体で負担を少なくしていけるのかなと思う。



Q

短時間とか夜勤とかの希望はあるんでしょうか。



日中専門で・・・



若い時は、フルタイムで。でもこれから、結婚とか、子育ても頑張りたいたいけど仕事も頑張りたいたいときは短時間とかのシステムがあれば、看護師を続けられるのかなと思う。



どれだけ看護職の労働人口があるかってことにもかかっている。日本看護協会が目指しているのは勤務と勤務の間が11時間以上空とか、夜勤は月8回以内とかの指針が出ていますね。やっぱりそういうところをきちんとやっている病院がいい。



Q

仕事と家庭の両立について何か思うところはありますか。



看護師は休日も仕事があったり、始業も終業もその日の業務によるけど変則的なので、仕事と家庭の両立は難しいかなと思います。



Q

ワークライフバランスの考え方も国によって違いますよね。ニュージーランドでは家庭を大事にしているそうです。



Q

皆さんは仕事と家庭のウエイトはどちらが重いですか？



私は家庭です。



家庭かな。



まだ看護師のキツさがわからないので、何とも言えないです。



両方同じ?現実感がないから。



Q

ではもう1つのテーマですが、AIについてです。

AIについてちょっと解説

AIは人工知能と訳され、「今ある仕事の多くはAIに奪われる」といわれていますが、看護師はAI時代にも生き残る職業と言われています。医療分野では、診療支援システム「ホワイトジャック」が開発中で、AIと人間の医師が対話しながら病名候補を探したり、病名ごとに推奨される検査や薬などを表示するなどAIの活用が検討されています。



Q

AIと看護について聞いていきたいと思っています。ズバリ、AIは看護診断のツールとして活用可能でしょうか。



看護診断の講義はこの間やりました。



Q

AIが看護診断してくれたら助かる？



(うなずき)(一同 笑)



Q

正直ですね～。



まあ、補助的な役に立つのかな。看護でも疾患による一般的な看護だったらいと思うんですけど、特に看護って患者さんの心のケアも入っているから複雑なので、看護の根本的なところまで機械が入っちゃうと、ちょっといけないかなって思います。僕が患者だったら嫌だからってのもあるし、看護はあくまで人と人の信頼関係の上に成り立っているとと思うから。



自分も看護師さんにしっかり関わってほしいと思う。特に気持ちの面は機械では支えられないと思うので、看護師に支えてもらいたいって気持ちがあります。



Q

今は電子カルテに入力すると、ビッグデータからある程度、看護診断ができるようなシステムもあるようです。最近聞いた話では、先輩看護師が後輩看護師にこのボタンを押せばいいという、How toしか教えなくなることは注意しなくてはいいかなと思いますし、90歳と20歳の人の精神的ケアの内容がAIでは同じように診断されてしまうようです。90歳の人の人生の細やかなところは、まだまだ人間がやらなければならないと思います。



Q

話が盛り上がっているところですが、残念ながらお時間となってしまいました。今日はざっくばらんなお話が聞いて楽しかったです。ありがとうございます。

看護研究 発表会

看護研究での学び

4年生



私の看護研究は精神看護学ゼミナールで行いました。研究については3年生の2月ごろから研究法の講義が始まり、4年生の専門ゼミナールⅠ、Ⅱでは実際に自分の研究テーマの研究に入りました。研究の計画書作成からインタビューの文字起こしやカテゴリ分け、結果から考察を深める

ことなど全てが初めてのことで、探り探りで進めていきました、特にカテゴリ分けではどのようにインタビュー結果をまとめるべきか悩みましたが、そこで何度も指導して下さった後田先生にはとても感謝しています。また、看護研究と看護師・保健師の国試勉強との両立が大変で、研究は講義などと異なり個人それぞれのペースで進めていく部分があるため、自分で計画を立てて進めていく必要があります。特に模試の勉強と研究を進めるタイミングが重なった時、何度が焦りを感じる場面もありました。

ただ、精神看護学ゼミナールはゼミ生同士の雰囲気も温かく、先生も優しく指導して下さるので楽しく研究を進めることが出

来たのがとてもありがたかったです。温かい雰囲気楽しく研究を進められるのは精神看護学ゼミナールのとても大きな魅力だと感じます。また、自分が興味のある分野で研究を行えたことで、研究を進めていくほどに発見があったのが楽しく、以前から興味があり知りたかったことを、インタビューやその結果から考察を行う経験を通して学びを深めることができたことはとてもやりがいがあり、貴重な経験となりました。



看護研究

4年生



看護研究を行うにあたり悩んだことは、「何についての研究を行うか」ということでした。これまでの講義や演習、実習の中で自分が興味を持ったことは何かを思い返した際に、あまり思い当たることがなかったのが正直なところでした。これは私だけでなく、多くの4年生が感じた困難であっ

た点ではないでしょうか。その時思ったことは、「1年生から3年生までの学習のなかで、ただ学ぶだけでなく、研究を見据えた学習を行っていたら様々なアイデアが浮かんだのではないか」ということです。なので、1年生から3年生の皆さんは、研究者としての視点を持ちながら、これからの学習を行っていくとスムーズに研究を始めることが出来てよいと思います。

また、看護研究のやりがいは、自分が気になる事を突き止めることができることです。研究を進めているうちに、知らないことが明らかになったり、それをゼミのメンバーで共有したりする事でお互いに学びを深めることができ、楽しさも感じました。また、行っ

ている研究は臨床現場での看護に還元することを目的としているため、責任をもって研究を行うことが求められます。得た情報を丁寧に分析し考察する事は大変ですが、出来たときはとても達成感とやりがいを感じました。

ゼミの先生からの指導やアドバイス、メンバー間での励まし合いが支えとなり、研究を進めることができました。大学生活の集大成となる看護研究を終え、大変なこともありましたが学びの多い経験になりました。



ふれあい実習の学び



1年生

私たち1学年は3日間、上越の3地区に分かれてふれあい実習を行いました。私たちにとって大学生活で初めての实習で、不安もありましたが実習を通して多くのことを学ぶことができました。

私は、地域の人々との価値観の違いに学習の重点を置いて実習に臨みました。訪問させていただいた地区は山に囲まれた地域が多く市街地から離れているため不便なのではないかと感じていました。しかし、

お話を伺った地域の方々の多くが、今の生活に不満を抱いていないように感じました。車がないと生活していけないとおっしゃっていましたが、

人と人とのつながりが深いことが何よりの魅力であり、この地域で生活していくことの楽しさでもあったと伺いました。近所の方々の最近の様子などを共有できるのも、多くの人が顔見知りであるためです。便利に暮らせることが重要なのではなく、できることはできる人がやり、必要なことは地域の人が協力してやる、そういった風習が自然とできていることはこの地域ならではのことであったと思います。医療についてのお話では、今までの人生に悔いはないので延命治療は行わずに楽に最期を迎えたいとおっしゃっていました。このことから、延命治療を選択するか否かは、1人1人の人生の過ごし方によるものだと思います。

今回の実習で、多くの人の生活・考え方をすることでその人にとっての大切なものを考えながら接していくことが大切だと学びました。

基礎看護学実習Ⅱを終えて



2年生

今回の5日間の病院実習では初めて一人の患者さんを受け持ち、情報収集や援助の計画・実施を行いました。

私はより患者さんに合った援助を行うために会話の時間を多くとりました。その時に感じたことは、病室で過ごしている患者さんは話し相手がいるとすごく生き生きとお話して下さるといことです。看護師さんは日々の業務が忙しく、なかなか一人一人とじっくりお話をする時間を取ることができません。しかし患者さんの中には病室を訪れる看護師との会話が唯一の楽しみになっている人もいます。患者さんとのコミュニケーションは情報収集や信頼関係の構築だけ

でなく、心のケアという精神面でも大切な役割を果たしていると学びました。

また今年度から新たにチーム医療実習が基礎看護学実習Ⅱに含まれています。2日間と短い期間でしたが、病院内の多職種の方と看護師との関わりや連携の実際について知り、看護師は病院内で多職種の方とつながっており、患者さんの代弁者のような役割を果たしている、という存在の大きさを実感しました。

実習期間中は普段の大学での生活と異なるため、慣れないことも多くあり不安でしたが、毎日「お疲れさま」と連絡をくれる友達や、「体に気を付けて頑張ってください」と応援してくれる家族のおかげでとても充実した計7日間の実習にすることができました。次の実習は1年後です。これまでの学習の積み重ねの結果が現れる実習になるので、今回学んだことをしっかり整理し、日々の学習を通して学びを深めていきたいです。

でしたが、試行錯誤の過程を経験できてよかったです。

精神看護学実習を終えて



3年生

今回私は、受け持ち患者さんとの関わりを通して、人それぞれの適切な距離感や関わり頻度が異なることを再確認しました。実習期間中は、受け持ち患者さんとのより良い距離感を自分なりに模索し続けました。関わりの中で笑顔がみられた時は、とても嬉しかったです。その患者さんに適した接し方をするためには、患者さんのことを多角的に、より詳細に知り、それらの情報を踏まえて関わり回数を重ねながら、関わり方を試行錯誤していくことが必要だと思ひます。結局、最終日も関わり方に関して、「このやり方でいいんだ」という明確な自信は持てません

でしたが、試行錯誤の過程を経験できてよかったです。

疾患によって、「精神疾患のない人」が持っているはずの機能が抑制された状態であったり、本来ないはずの妄想などが出てきたりするため、精神を病むことは苦しいのだと思ひます。また、それに苦しんでいる間に得られなかった「人としての成功」があるから、精神を病む人はさらに悲しいのだと思ひます。しかし、その方が持つ「心」は、健常者とまるで変わらないものです。だからこそ、妄想や幻覚があったとしても、私たちは言葉や感覚を共有し、共に笑いあうことができるのだと思ひます。看護師として患者さんの思いに寄り添うことや、生活能力の獲得を後押ししていくことは、その方が生きることを肯定し、応援することそのものなのではないでしょうか。

多様な患者さんの力になれる看護師を目指したいです。

多様な患者さんの力になれる看護師を目指したいです。

総合実習の学び



4年生

私は4年生の総合実習で成人看護学領域の「がん看護・緩和ケアコース」の実習をしました。近年がんの罹患者数は増加傾向にあり、がん看護のニーズも高まっています。しかし私はこれまでの実習でがん患者様に関わった経験がなく、受け持つのはこの総合実習が初めてでした。最初は苦痛や不安を多く抱えている患者様にどのように向き合い看護を行えばいいのかわからず、自分の看護ケアに自信が持てませんでした。しかし患者様とコミュニケーションを重ねていくうちに、この患者様が大切に考えていることは何か、苦痛を感じている部分は何か、不安を抱

いている部分はどこかなどが分かり、行うべき援助内容が具体的にイメージできるようになりました。先生や看護師の方と相談しながら、ケアを考え実施した結果、患者様から「気分がよくなった」「体が楽になった」などの反応が得られ、患者様が苦痛を軽減しその人らしく過ごせるように援助できたことが自信に繋がりました。がんの発生部位や進行度によっても、患者様の抱える苦痛は異なり、また人によって精神的苦痛と感じる部分も異なります。その点を看護師が把握し、看護ケアに生かすことで患者様がより安楽に過ごせるようにサポートできるのだと学ぶことができました。根治方針か、緩和方針かによっても行うべき看護は大きく異なるので、今回の学びを生かしながら、患者様の安楽に繋がる看護を模索していきたいです。

オープン キャンパス

オープンキャンパス2018 報告

8/6(月)、8/20(月)にオープンキャンパス2018を開催しました。「体験学習あり」「体験学習なし」2つのコースを実施、2日間あわせて約600名の方にご参加いただき、大盛況のうちに終えることができました。

全体説明(両コース共通)

学長からの挨拶、大学概要・入学試験概要についての説明、資格取得についての説明に続き、卒業生から未来の後輩たちへ看護職についてのお話をさせていただきました。

▼ 全体説明の様子(8/6、8/20実施)



体験演習(体験学習ありコース)

2日間で6つの体験演習を実施し、看護の中にもいろいろな種類があることを身近に感じていただきました。また、在学生の声を直接聞くことができる「在学生との懇談」を実施しました。

▼ 血圧測定、モデル人形を使用した聴診体験(8/6基礎看護)



▼ 在学生との懇談(8/6、8/20実施)



模擬講義(体験学習なしコース)

一足先に大学での講義を体験していただきました。

▼ 精神看護「どうしたらいいの? インターネット依存」(8/6)



個別相談(両コースの希望者)

入試や奨学金、学生生活について、参加者の方からの質問に教職員と学生が答えました。

▼ 個別相談(8/6、8/20実施)



学生アンケート



実習乗り切り法は？

今回は「私たちの実習乗り切り法!」として、全ての実習を終えた4年生と只今実習中の3年生にアンケート調査しました。

皆さんどのように乗り切っていたでしょう?多かったもの3つを発表しますね!

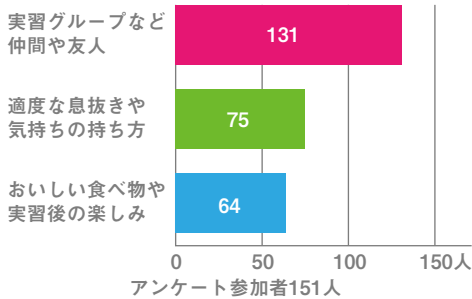
まず1つ目は **実習グループをはじめとした「仲間や友人で乗り切る!」**でした。
レセプションホールでは、グループで課題に取り組む姿を多く見掛けますが、仲間の存在は乗り切るための心強い味方ですね。

2つ目は **適度に息抜きしながら「なんとかなる!」**。
過密なスケジュールの中、上手に息抜きしていたのですね。



3つ目は **おいしいものを食べるなど楽しみなこと**で乗り切る! でした。
他には「友だちの手作り弁当」という記載もありました♡

私たちの実習乗り切り法!



皆さん、上手に乗り切っていますね! 1~2年生は参考になりますね!
3~4年生の皆さん、アンケートへのご協力ありがとうございました。

新任教員紹介



臨床看護学領域 母性・助産看護学
助手 上田 恵

7月1日より、本学母性・助産看護学の助手として着任いたしました、上田恵と申します。

私は奈良県の助産師養成所を卒業し、臨床で助産師として25年間働き、その後病院附属の看護専門学校で専任教員として、看護学生の教育に携わってまいりました。看護学生さんは、母性看護に苦手意識を持ちやすいですが、日々関わる中で、母と子の初めての出会いから新た

な人生のスタートを切る場面に立ち会い、母子の健康を見守っていく母性看護の大切さと素晴らしさを理解してもらえた時はとてもうれしく思います。

まだ、実習も始まったばかりで、色々戸惑うことも多い毎日ですが、学生の皆さんの学習目標が達成できるよう、全力で支援していきたいと思っております。

また、大学での勤務は初めてで、教職員の皆様にはご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、努力してまいりますので、ご指導よろしくお願いたします。



研究室訪問

みなさん、研究室を訪ねたことはありますか？

今回は
精神看護学
「後田 穰講師研究室」です

新潟県、上越市に住んだ感想

新潟県上越市に住んで10年以上になりますが、ずっと関西で過ごしていたので、最初は雪に悩まされました。50センチ以上に積もることも多く、これは初めての経験でした。しかし、新潟は新鮮な魚や農作物などが手に入りやすく、まして米どころということで、とにかく食べ物が美味しいです。また、関西に比べて自然が身近に感じられます。上越は海にも山にも近く、散歩するのも楽しくなり



休日の過ごし方、 趣味やハマっていることについて

新潟県は良質な温泉が多いので、よく行きます。殆ど日帰りですが、北の方では関川村の桂の関温泉や新発田市の月岡温泉。上越近辺だと、松之山温泉とか鵜の浜温泉などですね。少しマニアックにもなって、温泉の講習会にも参加して温泉ソムリエの認定も頂きました。それから、各地の温泉めぐりをしているうちに、そこの風景や景観の良い所などを写真に収めるようになりました。そして、昨年は公園専門メディア「PARKFUL」が主催するフォトコンテストで優秀賞を頂きました。



現在取り組んでいる研究について

今取り組んでいる研究としては、同じ領域の先生と二人で取り組んでいるものがあります。我が国最古の精神科病院として新潟県加茂市に存在していた鵜ノ森狂疾院について現地取材などして調査、情報収集しています。しかし、現存する資料が少なく難航しています。その他、精神看護学とは直接的な関係ではないのですが、精神看護学領域メンバー共同研究として、これも歴史研究ですが「近代看護の先駆者、大関和の思想的背景」というのもやっています。



精神看護学授業について

楽しいですね。講義で精神看護を学生に教えるのは結構工夫も要するのですが、実際に学生が体験学習できる演習や実習は学生の反応も良いです。特に実習は直接学生が患者さんと接する機会となるわけですから、学生も教員も緊張感も充実感も出てきます。



たくさんお話を下さり、ありがとうございました！
次回はどの先生の研究室にお邪魔するかお楽しみに…。

いきいきサロン

平成30年度いきいきサロン報告

健康に関心のある地域の皆様と、看護や健康などの専門家との交流の場として開催している「いきいきサロン」は、平成21年9月に第1回を開催してからこれまでに計64回開催し、延べ6,393名の方にご参加いただきました。

「いきいきサロン」では、お茶を飲みながらの和やかな雰囲気の中で、地域のホームドクターや保健医療福祉などの専門家もしくは看護大教員が健康に関する話題提供を行いながら、地域の皆様と交流することを目指しています。

ちなみに今年度は、計6回開催し、その内容は、『予防可能な認知症は予防しよう』、『急がば回れの健康体操』、『訪問看護をご存知ですか』、『低栄養を学ぼう』、『生活習慣病について』『ストレスと上手に付き合うには』と多方面にわたるものでした。各回の参加者数の平均も134名と大変多く、新潟県立看護大学の「いきいきサロン」が地域の皆様に周知されていることを感じます。

これからも「いきいきサロン」は、皆様のご要望や健康に関する世の中の動きなどを参考にしながら、皆様がいきいきと生活していくことを応援するテーマを準備して参ります。

ぜひお気軽にご参加ください。



新潟県立看護大学
Niigata College of Nursing

〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地
Tel 025-526-2811 Fax 025-526-2815
E-mail soumu@niigata-cn.ac.jp

編集
後記

今号は「実習」に力を入れました。1年次はふれあい実習、2年次は基礎看護学実習、3年次は精神看護学などの領域別実習があり、4年次は総合実習があります。それぞれ、実習の様子や学生の成長をお伝えできていたら幸いです。また、3・4年生の実習の乗り切り方も紹介しました。ぜひ手にとって読んでいただければ幸いです。

ご協力いただいた皆様に深く感謝いたします。次号もお楽しみに。

川野、後田、高塚、杉田、石岡

<http://www.niigata-cn.ac.jp/>

発行日：2019年1月00日